

## 令和4年度 福祉教育推進セミナー 交流及び共同学習のポイント・進め方

愛知教育大学  
特別支援教育講座 准教授 相羽大輔  
aiba@aecc.aichi-edu.ac.jp

1

### 本日の内容

1. 講演  
交流及び共同学習の概要説明  
交流及び共同学習の進め方

(休憩)

2. ワークショップ

※資料のデジタルデータは  
こちらになります・・・→



2

### 交流及び共同学習とは

3

Q 1  
そもそもの話になりますが、  
交流及び共同学習の目的とは  
何でしょうか？

4

### 交流及び共同学習とは

(文部科学省, 2019)

#### 定義

: 幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校(以下「小・中学校等」という。)及び特別支援学校等が行う、障害のある子供と障害のない子供、あるいは地域の障害のある人とが触れ合い、共に活動する交流及び共同学習は、障害のある子供にとっても、障害のない子供にとっても、経験を深め、社会性を養い、豊かな人間性を育むとともに、お互いを尊重し合う大切さを学ぶ機会となるなど、大きな意義を有するもの。

5

### 交流及び共同学習とは

(文部科学省, 2019)

#### 2つのわかちがたい目的

: 相互の触れ合いを通じて豊かな人間性を育むことを目的とする交流の側面

: 教科等のねらいの達成を目的とする共同学習の側面

#### 方法

: 学校間交流・居住地交流・学校内交流がある。

共生社会、インクルーシブ社会、心のバリアフリーの実現に寄与するもの

6

### 参考：心のバリアフリー

[https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020\\_suishin\\_honbu/udeuisin/program.html](https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020_suishin_honbu/udeuisin/program.html)

「心のバリアフリーとは、様々な心身の特性や考え方を持つすべての人々が、相互に理解を深めようとコミュニケーションをとり、支え合うこと」  
(「ユニバーサルデザイン2020行動計画(2017年2月ユニバーサルデザイン2020関係閣僚会議決定)」より)

「心のバリアフリー」を体現するためのポイント  
(1) 障害のある人への社会的障壁を取り除くのは社会の責務であるという「障害の社会モデル」を理解すること。

(2) 障害のある人(及びその家族)への差別(不当な差別的取扱い及び合理的配慮の不提供)を行わないよう徹底すること。

(3) 自分とは異なる条件を持つ多様な他者とコミュニケーションを取る力を養い、すべての人が抱える困難や痛みを想像し共感する力を培うこと。

7

### 交流及び共同学習の進め方 そのポイントについて

8

Q 2  
交流及び共同学習を実施する  
前に留意/確認すべきことは  
何でしょうか？

9

**ポイント：ビジョンを明確に持つこと**

●特別支援学校の場合  
：盲学校の児童が将来大人になり、地元で成人式に参加するとき、一緒に行ってくれるような仲間を増やしたい。

●小学校等の場合  
：校内の特別支援学級の児童を含め、多様性に理解のある児童を増やしたい。また、障害児を受け入れることによって授業UDを進めたい。

それぞれも目的を共有しながらも、互いに目的が達成できるよう十分な計画を立案し、無理なく実施していく必要があります。

10

**Q 3**  
交流及び共同学習の事前学習を進めるには、どのようなことに留意すべきでしょうか？

11

**ポイント：事前の準備・学習**

●特別支援学校・特別支援学級等  
：自己紹介の仕方、ヘルプの出し方、交流及び共同学習の内容（例えば、国語の教科書の音読）についての予習、イメトレをしておくことが大切。

●小学校等  
：「障害」の理解を目指して、アイマスク体験や車いす体験のような〇〇体験、支援方法の習得、特別支援学校等の教師による講話で、相手の立場に立つことを学ぼうとするものが多い。

12

**「障害」に対する教育的アプローチ**

障害のある子とない子の関係を形成し共生社会の構築に重要なアプローチとして・・・

交流及び共同学習 (文部科学省, 2012; 内閣府, 2011)	
福祉教育 【対象】人権・福祉全般 【方法】体験活動 (日本福祉教育・ボランティア学習学会, 2014)	障害理解教育 【対象】人権・障害 【方法】正確な知識 (徳田・水野, 2005)

様々な取り組みが学校教育全般で行われている

13

**障害理解を扱う教育の課題**

例えば、〇〇体験や障がい者スポーツ等の〇〇体験や当事者講演会等については、一定の評価がされる一方で、実施方法によっては、ネガティブな感情を助長するとか、触れ合いの域を脱せない学びとか、当事者が単に交流される対象（教材）として扱われるといった指摘があります。

(伊佐地ら, 2003; 鈴木, 2006; 大谷, 2001)

交流及び共同学習で、障害のない児童生徒が学べべきことは、いわゆる支援技術ではなく、関わり方、コミュニケーションの取り方、そして、心構え等をみにつけることです。

14

**研究室による地域支援の事例**

愛知県では、弱視児が1名いれば、特別支援学級(弱視学級)が設置できます。インクルーシブ教育システムの実現に向けて、研究室では、地域の交流、及び、共同学習を円滑に進められるよう弱視児と健常児の仲間づくりのためのワークショップを行っています。

ワークショップでは、見えにくい友達について知るデジタル絵本の視聴、簡易シミュレーション体験、当事者の専門家によるQ&A、(特に、弱視児本人の魅力が伝わる話)などをひとつにした福祉教育パッケージになっています。

15

**体験学習前のデジタル絵本**

弱視学級の先生方からの要望を受け、周囲の子どもたちが弱視児との関わり方を学ぶデジタル教材を作成しました。前半は学校生活、後半は友達としての関わり方を強調しています。



16

**体験内容**



17

**授業後の児童の感想の特徴**

	共通点	相違点
交友	趣味や関心事が同じ。一緒に遊べる。	趣味や関心事が違う。

弱視児の語りから、好きなこと(ゲーム・鬼ごっこなど)が同じ・違う等を意識でき、親近感が芽生えた。

	共通点	相違点
コミュニケーション	意思伝達できる。気持ち、感情。	コソアド言葉が分からない。

コミュニケーションでは、名前を呼ぶ、指示語を使わない等工夫が必要になるとわかった。

18

### 授業後の児童の感想の特徴

	共通点	相違点
見え方	色が見える。補助具を使うなどの工夫をすれば見える。	細かい物や文字が見えにくい。
生活	色塗り、掃除、食べ物の盛り付けができる。	食べ物をパランスよく盛り付けることが難しい。

自分と同じように見えて、できることもある。けれど、限界もある。

19

### ポイント：親近感×コンプライアンス

- 交流が目的  
：障害特性ばかりでなく、その児童生徒ができることや、その人らしさを伝えることが大切です。
- 共同学習が目的  
：主に、準ずる教育の対象児が前提と思われませんが、共に、学ぶための環境整備、合理的配慮を等しく教育を受ける権利の保障のために徹底することが大切。そうすれば、障害児童生徒のできる部分が自然に伝わります。なお、教材化は禁忌です。

共同学習で学ぶ権利を保障するためには、高度な専門性が不可欠で、支援学校と連携をおすすめします。

22

### 仲間意識に基づく関係性

目的：仲間関係(仲間としての行動)そのもの  
例：理解しあう、一緒に何かする、仲良くなる

障害のある人 ↔ 仲間(友達・同僚)

支援の性質：必ずしも100%の質とは限らない  
両者のための支援(関係継続の手段)

25

### 弱視児と仲良くなるためのお約束

「な」：名前を伝えてから話しかけよう。  
※自分から話すためには、名前を知らないとな。

「か」：勝手にレンズを触らないようにしましょう。  
※補助具は大切な第二の目です。

「ま」：「手伝って」といわれるまで待とう。  
※自他共にいえる雰囲気を作りましょう。

上手に友達としてのかかわるためのルールを見える子にも、見えにくい子にも伝えてあげましょう。

20

### ポイント：クラスメイトとして

- どちらの目的であっても  
：障害のある児童生徒と障害のない児童生徒は同じ立場、クラスメイトであることが前提です。
- いわゆる、接待交流は禁忌  
：小学校等の児童生徒が●●会等を企画し、そこに招待し、「してあげた」ことの結果としての「学び」では障害のない児童生徒の態度か前向きにならない(大谷, 2001)。

クラスメイトとして関わるためには、仲間として、対等な関係を作ることが大切で、仲間としての支援が求められます。

23

### 仲間としての支援とは？

目的：仲間関係(友達や同僚としての行動)のため

障害のある人とない人が互いに理解していると関わりやすくなる  
一緒に行動する時に役に立つ  
ような、知識や技術

特徴：お互いの関わり合いの中で育まれる  
必ずしも、100%の支援にはならない

専門的ではない、カジュアルサポート

26

### Q4

交流及び共同学習の当日の内容については、どのようなことに留意すべきでしょうか？

21

### 支援に基づく関係性

目的：障害者が社会生活上持ちうる種々の困難を低減し、よりよい社会生活を送れるようにすること

障害のある人 ← 支援者

支援の性質：100%の品質が求められる。  
支援の方向は障がいのある人を向いている

24

### カジュアルサポートと3つの視点

お互いに出来ることと出来ないことがある中で、どのような支援を行うのか？

3つの視点

1. 必須な支援 (二人で行動するのに不可欠)
2. 助けとなる支援 (自分でも出来るけど、あれば嬉しい)
3. 不要な支援 (余計なお世話、むしろ要らない)

重要：3つの支援は、「障害特性」「交流相手」「環境」「時間」など、状況により変化する

27

### ポイント：その他

●無理ない関係づくり  
：特に、共同学習では障害のある児童生徒と障害のない児童生徒の進度が異なるので、可能な部分（例えば、発表）だけでまずは取り組みましょう。遠隔交流も選択肢のひとつです。

●居場所づくり  
：障害のある児童生徒は、普段、同じ場で授業を受けていないため、どうしてもお客さんになります。病弱児のように、形式的に机を設置、作品を展示、係分担に名前を記入等が気持ちを变えます。

クラスメイトであることを意識しましょう。

28

Q5  
交流及び共同学習の参考になる実践事例を紹介してください。

29

### ポイント：対等な仲間をつくるために

- 誰もが楽しい空間づくり  
※障害の有無に関わらず魅力的な内容
- できること、できないことは誰にでもある  
※障害領域のプロの観点
- チーム取り組む共同作業を活かす  
※サポートの負荷を考慮
- 誰もが主役になれる瞬間をつくる  
※チームではひとり役

NPOの実践経験に基づき、交流イベントを作成する際の基本方針としています。

30

### 団体概要と実践紹介



団 体：NPO法人Inclusive Fellowship Promotion  
ウ ェ ブ：<http://team-ifp.com/wp>  
拠 点：東京都近郊  
スタッフ：14名（20～40代）  
歴 史：2002年に相羽が設立（任意団体）  
2011年、NPO法人格取得  
活動内容：心のバリアフリーを推進する

障害者と健常者がチームを作り、何らかの目標に向かって試行錯誤するような経験ができる交流イベントを行っています。

31

### バックグラウンドアドベンチャーin TDS ～目指せ！ディズニーマイスター！！

日 時：2015年3月7日（土）10:00～19:30  
場 所：東京ディズニーシー  
参加者：41名  
障がい：14名  
（視覚7名 聴覚2名 運動5名）

32

### 目的

できること、できないことを理解し合い、共同作業を通じ、仲間として関わる足場を作る交流イベントの特徴

- ・TDS内のバリアフリーサービス
- ・スタッフによる障がいへの配慮
- ・楽しいレクリエーション
- ・グループマネジメント



共に参加して楽しむ！

33

### TDS内のバリアフリーサービス

例

- ★車椅子のまま乗れるアトラクション
- ★誰でもトイレの整備
- ★視覚障害者向け、音声ガイド
- ★触ってわかるアトラクション模型・地図
- ★聴覚障害者向けストーリーペーパー・字幕器
- ★手話の話せるキャスト
- ★特別ツアー（タワー・オブ・テラー）
- ★待ち時間の配慮

34

### スタッフによる障害への配慮

視覚障害

歩行介助、周囲の様子の言語化

聴覚障害

手話通訳、筆談、聞きやすい話し方

運動機能障害（肢体不自由）

ノンステップルートの確保、歩行介助、

車椅子介助、トイレの確保



TDSでは不足するサービスをスタッフが補完

35

### 交流をしやすくするレクリエーション

普段遊びに行く時には気づきにくいディズニーシーのバックグラウンドストーリーを探し出すクイズ形式のツアーを行いました。

ひとりひとりの参加者がディズニーマイスターを目指しました。

単に両者が一緒になって作業に取り組むのではなく、自然な雰囲気の中で、互いを知り、関わり方を学び合えるようアイスブレイクや、スタッフによるコーディネートを導入しているのが特徴です。

36

### グループマネジメント

- 交流を円滑にするコーディネーション  
スタッフの存在  
障がい ⇒ 安心して参加できる環境づくり  
健常者 ⇒ 障がい者への関わり方を例示
- 助け合いのグループ運営  
できる人が、できることをする  
※健常者は介助者・支援者ではない。  
※障害者も健常者も関係ない。

37

### アイスブレイク・自己紹介ゲーム

I am **Meister!**

Name: \_\_\_\_\_

名札

**うそ？ほんと？**

1 好きなディズニーキャラクターは？  
→ ミッキーマウス

2 苦手なことは？  
→ ○○○○ ××××

3 嫌いな食べ物？  
→ ○○○○ ××××

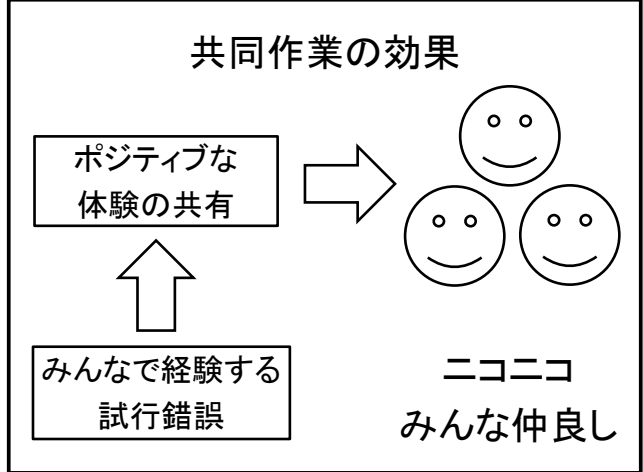
人見知りでも大丈夫!!  
話題さえあれば、  
仲良くなるきっかけに!!

40

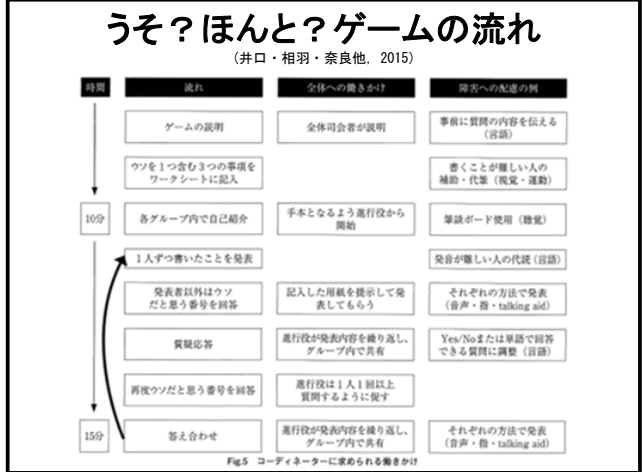
#### 引用・参考文献

- 井口重希子・相羽大輔・奈良里紗・高濱明日香・石坂美未 (2015) 障害者と健常者が共に参加できるアイスブレイクプログラムの開発：時間と課題の工夫がプログラム評価に及ぼす効果を中心に。日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要, 25, 102-110.
- 伊佐地隆・大仲功一・根本哲広・旭佐紀子・上原広子・水島昌文・真寿田三葉・池田恭敏 (2003) 中学校行事のスキー宿泊学習を習熟生とともに経験した生徒の意識変化。リハビリテーションスポーツ, 22(2), 68-73.
- 文部科学省 (2019) 交流及び共同学習ガイド。文部科学省。
- 文部科学省 (2012) 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築のための特別支援教育の推進(報告)。2012年7月23日。  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/044/houkoku/1321667.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/044/houkoku/1321667.htm) (2023年1月28日閲覧)。
- 内閣府 (2011) 障害者基本法 最終改正：平成二五年六月二六日法律第六五号。
- 奈良里紗・相羽大輔・高作朗・大部令絵 (2011) 事前の情報提供が障害者と障害者の共同作業に及ぼす効果：学校教育への応用可能性を目指したNPOの実践報告。日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要, 18, 43-56.
- 日本福祉教育・ボランティア学習学会 (2014) 福祉教育・ボランティア学習の新機軸—学際性と変革性—。大学図書出版。
- 大谷清隆 (2001) 交流教育における知的障害児に対する健常児の態度形成：態度と事前指導における情報提供、交流経験、評価対象となる知的障害児の特定との関連性の検討。特殊教育研究, 39(1), 17-24.
- 鈴木治郎 (2006) 当事者の役割と福祉教育・ボランティア学習への期待。日本福祉教育・ボランティア学習学会年報, 11, 56-65.
- 徳田克己・水野智美 (2005) 障害理解—心のバリアフリーの理論と実践—。誠信書房。

43



38




41

### 当日のタイムテーブル

- 10:00 開会式
- 10:30 レク開始
- 17:00 晚餐会場到着
- 17:30 晚餐会開始
- 19:30 解散／自由行動開始

39

### 3つのミッションに挑戦



IFP@EventMap

42